

注意事項

- ① 本大会は令和2年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、大会運営規則、公認審判員規程により行います。
- ② 新ルールに伴う、種々の変更について
(ショートゲームは学校対抗の部、およびⅡ部のベスト8決定まで) ←前回までと同じ

大阪高体連バドミントン部公式戦でのショートゲームは、次のようにします。

男女・単複にかかわらず、

1. 15点3ゲームのラリーポイント制。
 2. 14点オールになったら、2点差がつくまで延長ゲームを行う。
 3. 20点オールになったら、次に21点を取ったサイドがそのゲームの勝者となる
 4. 3ゲーム目は最初に8点が入ったとき、チェンジエンズをおこなう。
 5. 1ゲーム目と2ゲーム目、2ゲーム目と3ゲーム目の間には60秒を超えないインターバルを認める。このとき、2名以内のコーチの立ち入りを認める。20秒前にはコートに入り、コーチはコートから去ること
 6. 各ゲームで最初に8点が入ったとき、必要ならば汗ふき・ドリンク程度のインターバルを認める。
ただしこのときは、コーチの立ち入りは認めない。
 7. 上記5.6.のインターバル時以外でも、インプレーでないときのコーチのアドバイスを認めます。
- また、言うまでもありませんが、線審は審判であってコーチではありませんので、一切のアドバイスは認められません。もっと言えば、試合が終了するまでプレーヤーと接触(話など)をしてはいけません。

また、正式ゲームについて。以下の点に特に注意してください。

1. ドリンク、汗ふきは極力インターバル時に行い、それ以外はマッチの進行に支障がある場合のみとしてください。
2. インプレー時以外のコーチについては、コート後方等の椅子に着席した状態で行ってください。立ち歩き等は認めません。また、くれぐれも試合の進行を妨げないようにしてください。妨げた場合は本部(レフェリー)の指示で退場になることがあります。
3. 着替えが必要なとき(特に女子)は、インターバルの時間は考慮します。(着替え場所が遠い場合等)。かならず「着替えるので少し遅れるかもしれない」旨を、主審に申し出てください。

新ルールにともない、お願い

審判をするとき、全試合で時計が必要になります。高体連バドミントン専門部でも用意しておりますが、故障等で足りないときがありますので、審判をする人は、極力、「秒が計れる時計(ストップウォッチ、タイマー)」を持参するようにしてください。

- ③ 競技予定時刻の30分前には試合のできる状態で待機しておくこと。
試合の進行は原則としてコート番号を優先し、タイムテーブルを目安に行います。点呼をとりませんので、各コートの進行状況(何番の試合が行われているか)と本部からのアナウンスに注意して行動して下さい。タイムテーブルの予定時刻を大きく過ぎてもコートに入らない場合は棄権とみなします。
- ④ 服装は、襟付き白単一色とし、ソックスは短いものとします。(いわゆるルーズソックスは認めません)。色つきの服装をする場合、日本バドミントン協会の審査合格品とします。
上着の背には規定のネームをつけること。つけていない時は棄権とみなします。
背面表示は上衣の地色に映える色で行ってください。
濃い青地・赤地に黒字、黄色地に白字などはだめです。指導された学校は次回より、そのウエアは使用しないでください。(ゼッケンをつける)
- ⑤ 主審は、敗者審判とします。従って、試合の敗者は次の試合(自分が試合をしたコート)の主審となるので、ジャッジペーパーと使用したシャトルを持ってすぐ本部席へ来ること。本部席で次の試合のジャッジペーパーとシャトルを受け取り、選手名と服装・ネームを確認後、公正かつ明瞭に審判をすること。
- ⑥ 各日の試合の2段目の選手は最初の段の審判をお願いします。放送に注意すること。
- ⑦ 棄権がある場合は早い目に本部席に届けること。

- ◎ 申し込みと試合期日にかかなりの間隔がありますが、申し込み後の個人戦の選手変更、代理出場は認めません。これに違反した場合は、その時からその学校の6ヶ月間の公式戦出場を停止します。
- ◎ 会場には顧問の先生の付き添いをお願いします。
- ◎ ゴミは必ず持って帰ってください。

⑧ 故意、もしくは故意と判断されるようなゲームの中断（汗を拭く、ドリンク、靴のひもを締め直す）は、禁止されている遅延行為に当たりますので、厳に慎んでください。目に余る場合は、本部席より注意をさせてもらいます。

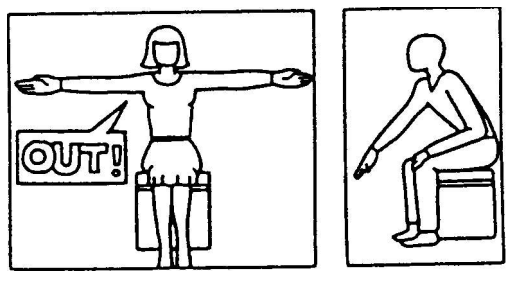
審判上の注意

<主審>

- ・個人戦では敗者審判制とします。（しっかりと審判できること）
- ・審判用紙・シャトルを本部より受け取り氏名・学校名・服装・背面ネームの有無を確認し同時にネットの高さ、ネットの両サイドのひもがポールに結ばれているかを点検する。
- ・審判は公正に選手・観戦者によくわかるように行うこと。
- ・個人戦の試合終了後は、勝者にサインをもらい、次の主審（敗者）に審判用紙 シャトルを渡す。

<線審>

- ・主審の「ラブオール」のコールで椅子に座る。
- ・ジェスチャーを正しく示す。
- ・「イン」・・・無言で片手をラインに指し示す。
- ・「アウト」・・・両腕を水平に開き合図する。
- ・イン・アウトの判断は自信を持って示す。
- ・姿勢正しく座る。



<審判用紙のつけ方>次ページを参考にしてください。

- ・審判 主審名を記入する。
- ・勝者署名 試合の勝者が得点を確認の上、記入する。

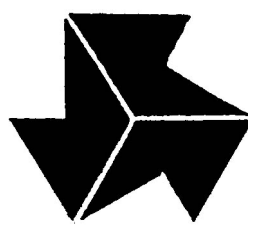
高体連マークの由来

このマークは、全国高体連が発足して、間もなく作成されたものであって、若人の力と技と明朗な精神を表徴するものである。

競技は力であり、進歩は技の錬磨に待つ、競技者はこれを包むに明朗な精神を持ってせねばならない。

高体連のマークを構成している三つのKは紅色によって浮き出され、若人の情熱を示すようなドイツ語の頭文字をとったものである。

力 KRAFT 技 KUNST
 明朗な精神 KLARHEIT



このマークは、高体連旗となって、全国大会はもちろんのこと、高体連の主催による大会の会場で必ず見かけることと思う。

[使用 体育館] <最寄り駅> <電話番号>
 臨海 SC (大阪府立臨海スポーツセンター) 高師浜 (南海高師浜線) 072-268-8351

鴨谷体育館 泉北高速鉄道「光明池駅」下車、徒歩 6 分

J:COM 末広体育館 (泉佐野市民総合体育館) 南海線「羽倉崎」駅下車 徒歩 15 分

大阪市立南高校 地下鉄鶴見緑地線松屋町駅南へ徒歩 1 分

東大阪大学柏原高校 JR 大和路線志紀駅より徒歩約 20 分

必ず事前に地図等でご確認ください。迷って試合に遅れた場合などは失格となります。

※ 体育館でのゴミは持ち帰ってください。

審判用紙記入例：正式ゲームの場合

